

科目名	日本史Ⅱ Japanese HistoryⅡ						
科目担当者	柴田 博子 SHIBATA Hiroko						
単位数	2	配当年次	2	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目・自由科目] 他学部他学科履修○					ディプロマポリシーとの関連	(4)(6)
授業の概要	<p>歴史は過去を扱う。すなわち過去を理解し、復元することである。理解・復元には資料・史料が不可欠である。私たちは根拠にもとづき過去を理解し復元しなければならない。</p> <p>『中学校学習指導要領』社会の「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視すること」、「調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにする」とある。</p> <p>そこで本科目では、歴史史料を扱う方法や、史料をもとに歴史事象を再構築する方法を、各自が近現代史料を調査と発表することを通して修得する。</p>						
授業の到達目標	<p>①日本史教育の場に立つために必要な、教材研究をできる力を身に付ける。</p> <p>②近現代日本史の基礎的な事項の知識を身に付ける。</p> <p>③近現代史料の調査と発表を通して、史料の性格を把握し、歴史事象をまとめ、発表する力を修得する。</p>						
授業計画・内容	1	異国船打払い令・日米修好通商条約					
	2	大政奉還上表文・王政復古の大号令					
	3	版籍奉還の上表・廃藩置県の詔					
	4	徴兵告諭・地租改正					
	5	民選議院設立建白書・讒謗律					
	6	日清講和条約・三国干渉					
	7	日英同盟協約・日露講和条約					
	8	第二次日韓協約・韓国併合に関する条約					
	9	米騒動・水平社宣言・治安維持法					
	10	二十一か条の要求・石井=ランシング協定・ワシントン海軍軍縮条約					
	11	リットン報告書・日満議定書					
	12	日独伊三国同盟・日ソ中立条約					
	13	ハル=ノート・カイロ宣言・ヤルタ協定					
	14	日米安全保障条約・沖縄返還					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	発表のための準備・調査研究・レジュメ作成 (50 時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	復習と学期中レポートの作成 (10 時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	調査研究と発表					50%	①、②、③
	小テスト・学期中レポート					20%	②
	定期試験					30%	①、③
成績評価基準	<p>秀：(評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：(評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：(評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：(評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：(評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合</p>						
教科書	笹山晴生ほか『日本史史料集』山川出版社 『図説 日本史通覧』帝国書院						
参考文献	『国史大辞典』吉川弘文館 『日本史大事典』平凡社 その他、講義中に適宜指示する。						
その他							

